



今年の教区の目標

平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年4月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第809号 (4月号)



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バートン司教

ご復活おめでとうございます。

今年も私たち教会共同体は、新たな兄弟姉妹を迎えた喜びに満ち溢れ、キリストの神秘体の成長に歓喜の声を上げています。受洗者の皆さん、心からお慶び申し上げます。

復活節に朗読されるイエスの復活に関する多くの箇所では、すべての箇所に共通する非常に印象的な特徴があります。イエスが弟子たちに現れた場所は、海辺、家の中、道中など、実に様々ですが、現実から逃げ惑う弟子たちは常に緊張し、罪悪感や恐怖に苛まれ、イエスへの信仰を疑っていました。しかし、すべての箇所に共通するのは、復活したイエスに出会った途端、彼らの恐れ、疑念、罪悪感、怒り、そして不信が、喜び、信仰、そして赦しに取って代えられたということです。復活したキリストとの出会いは彼らを根本から完全に換え、彼らはすでに復活の恵みを味わい始めたのです。弟子たちは、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合い、(ルカ 24:32) また、「本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。」(同 34) のです。

私たちは、人生において復活が死んだ時か世の終わりに起こるものだと考えがちです。しかし、私たちの信仰は、イエスとの個人的な出会いを深める時に、復活の意味を少しだけ味わうことができると教えています。イエスに近づくことは、私たちの現世における最も深い喜びの一つであり、天国(神との一致)を不完全ながらも味わう方法なのです。ですからすべての聖人たちは、イエスとの深い出会いが私たちの不安や恐れを軽減し、神への信仰と信頼を強めると教えているのです。聖ヨハネは「神の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠のいのちを得ていることを悟らせたいからです。何事でも神の御心に適うことを私たちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるといことが分かるなら、神に願ったことは既になんかえられていることも分かります。」(ヨハネの手紙 5:13-15) と私たちを励まし続けています。

司教となった今でも、私は出来事をほとんどコントロールできず、一寸先の未来も分からないことを自覚しています。ですから毎晩寝る前に、意識的に私の霊魂と、神から託されたすべての人々の霊魂を神の御手に委ね、こう祈ります。「主よ、目覚めている間、私たちをお守りください。眠っている間、私たちを見守ってください。目覚めている間、私たちはキリストと共に目を覚まし、眠っている間、キリストの平安の中で休むことができますように・・・。」そうすると私は、どんな時もぐっすり眠れるのです!!

私たちは神に愛されています。ですから、信者として、神に信頼し、人生を神の御手に完全に委ねなければならぬのです。そうすれば、今すぐにも復活の喜びを味わうことができるのです。

ハッピーイースター!! ウェイン司教



Easter Message 2026 ~ Bishop Wayne

"My Lord and my God!" (John 20:28)

Happy Easter! This year, our church community is filled with joy as we welcome new brothers and sisters into our lives, and we rejoice in the growth of the Mystical Body of Christ. To all the newly baptized, I extend my heartfelt congratulations.

As we go through the Easter Season and we read the many accounts of Jesus Resurrection, there is a very striking feature common to all the accounts. Even though Jesus appears to the disciples at very different venues: near the sea, in houses, and on roads etc., the disciples are always on edge, feeling guilty, are fearful and are doubting their faith in Jesus. What is common to all the accounts is that once they encounter the Resurrected Jesus their fears, doubts, guilt and lack of faith is replaced by joy, faith, and a feeling of forgiveness. Their encounter with the Risen Christ completely changes them and they begin to have a taste of the grace of the Resurrection. The disciples said to one another, "Were not our hearts set on fire when he spoke to us on the road and explained the Scriptures to us?" (Luke 24:32) "And they said, 'The Lord has risen and has appeared to Simon.'" (Luke 24:34)

In our own lives we usually think of Resurrection as something that will happen to us when we enter eternal life. However, our faith teaches us that we can get a little taste of what Resurrection means when we deepen our personal encounter with Jesus. Getting closer to Jesus is one of the joys of our present life and it is a way to get a foretaste of heaven. All the saints tell us that a deep encounter with Jesus will lessen our worries and our fears. It will strengthen our faith and our trust in God. In the words of St. Peter, "Do your best to add these things to your lives: to your faith, add goodness; and to your goodness, add knowledge; and to your knowledge, add self-control; and to your self-control, add patience; and to your patience, add service for God; and to your service for God, add kindness for your brothers and sisters in Christ; and to this kindness, add love." (Peter 2 1:5-7)



Even now as a bishop I realize that I have little control of events and that I do not know the future. So, every night before I sleep, I consciously put my soul and the souls of all those who have been entrusted to me by God, into his hands by saying this prayer: "Protect us, Lord as we stay awake; watch over us as we sleep, that awake, we may keep watch with Christ, and asleep rest in his peace." Then I get a good night's sleep!!!!

We are loved by God, and as believers we must trust Him and place our lives completely in His hands so that we can experience the joy of the Resurrection.

ご復活おめでとうございます。

Maligayang Pasko ng Pagkabuhay!

Chúc Mừng Phục Sinh!

Felices Pascuas!

2026年3月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2026年3月3日(火) 10:00~12:00 於・那覇教区センター

開式の祈りはウェイン司教が担当、司会はフランシス神父が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(2月会議)の報告を新田が行い、文字の訂正等が指摘され、修正の上承認された。
- ・教区の日々の反省点と、今後の展望について、各司祭たちから意見が求められた。その中で、この行事の役割分担の一部を教区事務局に担ってくれるよう意見が出された。これに対し、教区事務局側からは、多忙な業務をこなしながら、教区事務局のスタッフはそれぞれの立場で、すでにボランティアで手伝っているため、これ以上の負担を求めないよう依頼がなされ、特にこうした教区行事等の典礼祭儀は、教区事務局の業務には含まれていないことを理解するよう強く求められた。また、事前に確認していたことではあったが、教区の日のお祝いの対象として、改めてウェイン司教から司祭たちは叙階25年と50年、修道者も誓願25年と50年、信徒は婚姻50年のカップルのみを対象とすることが確認された。さらに、お祝いのステージに掲げられた横断幕は1回きりで廃棄するのではなく、使い回しの効く工夫したら良いとの意見も寄せられた。
- ・臨時司教総会について、ウェイン司教から報告が行われた。まず初めに、夕刻参集後の初日のプログラムはすべて祈りの時間に当てられ、これまでなかったことだったので斬新さを覚えたこと、教皇大使が挨拶の中でから、那覇教区に焦点を当てた言葉をいただくなど、いつもと違う会議の様相が印象的だったことが伝えられた。会議の中で那覇教区に関連することとして、次回の司祭の生涯養成プログラムをガクダン司教とレンボ司教が担当し、那覇教区での開催を模索していること。また、典礼担当の白浜司教からは、『復活のローソクの祝福(試用版)』が出されたこと、その背景などの説明が報告された。また、社会司教委員会の中にある様々な委員会を、「いのち・平和・人権」委員会として1つにまとめられることになったことが報告された。外国籍信徒に関する様々な組織も「多文化共生司牧部門」に1つにまとめられることも合わせて報告された。
- ・マイケル神父から、福岡で行われたシノドス研修会について報告があった。58名の参加者が6グループに分かれ、6つのテーマで霊による対話をもった。日本の最終文書を用意するために、全教区で同様の取り組みがなされることが決議されている。今後もシノドス担当者として那覇教区でも教区レベルで集いを持って、最終文書への教区報告できるよう準備を進めていくことが伝えられた。
- ・マーシーさんからカリタス沖縄の活動報告が行われた。牧志公園で、NPO法人ゆいまーのの会とコラボして炊き出しを行い、100食分のブタ丼を準備して、午前中に2回に分けて食糧支援を行ったことが報告された。
- ・サマーキャンプについて、担当のブイ神父から、スケジュール作りを3月から取組み、6月頃にテーマや日程をお知らせできるよう準備するとの報告があった。
- ・フィリピン宣教会のサニー神父が、正式に那覇教区での活動を終え、フィリピンで新たなミッションに就くため、那覇教区を訪れ、司祭会議で最後の挨拶を行った。ミンダナオで新たな任に当たるとのことであった。
- ・来月から大西神父が那覇教区に来られる予定であることがウェイン司教から報告された。それに伴い、ロドニー神父は具志川教会のみを担当し、コザ教会と泡瀬教会をヨアキム神父が兼任し、その協力司祭として大西神父が、それぞれ任命された。また、カプチン会の人事異動に伴い、デニス神父が真栄原教会から与那原教会へ、クレーバー神父が与那原教会から普天間教会へ、ナビーン神父が普天間教会から真栄原教会へそれぞれ主任司祭として任命された。
- ・10月に開催予定の3教区合同黙想会は、10/5~9日の日程で那覇教区で行われる。今回開催時期の変更を機に新たな開催場所を模索してきたが条件が整わず、これまでと同様安里に設定して準備を進めるので、ホスト役として那覇教区の司祭たちに協力を求められた。

2. 審議事項

4/1日、聖香油ミサ、午後6時~。4/2、3日、コザ教会。4/4日、復活徹夜祭、開南教会。
4/5日、復活の主日、具志川教会。

- ・教区ホームページ及び教区報への掲載についての基本方針が教区広報委員会の浜崎神父及びマーシーさんから提示された。「南の光明」は名称を公募して、表題を変更することが提案され、了承を得た。また、ホームページ及び教区報についての掲載に関する基本方針が示され、投稿に関しては主任司祭を通して行う等の様々な規定が提示された。

※司祭助祭拡大会議は3月31日(火)午後15時から、安里、教区センターで開催され、夕べの祈りの後、司祭たちの食事を挙げる。

2026年3月19日 承認: ウェイン・フランシス・バートン司教 記録: 新田 選

教区ホームページおよび教区報掲載に関する基本方針

教区ホームページおよび教区報の掲載に関し、編集および運営の適正を期するため、以下の基本方針を定めましたので確認頂くようお願いいたします。それに伴い、「南の光明」の新しい名称を募集させていただきます。なぜ、その名前を思い立ったのか理由もあれば併せてお知らせ下さい。締切は5月末までとなります。

① 掲載に関する基本方針・編集権について

- ・掲載の可否・掲載時期・掲載方法（HP／教区報）は教区（編集担当）に一任されています
- ・すべての投稿が必ず掲載されるわけではありません
- ・内容・文字数・表現等について、編集上の調整・要約・省略を行う場合があります
- ・緊急性・公共性・教区全体への影響度を考慮して優先順位を決定致します
- ・教区ホームページおよび教区報はあくまでも広報であり報道ではありません

② 掲載対象となる内容の目安

掲載対象	掲載が難しいもの
<ul style="list-style-type: none">・教区また小教区が主催、共催する行事・信仰養成、社会活動、公式行事の報告・教区全体または複数教会に関わる情報	<ul style="list-style-type: none">・私的、個人的な集まり・営利、勧誘、その他福音の価値観に合わないもの・教区の立場と整合性が取れない内容

③ 個人情報・肖像権・著作権

- ・記事内に個人名・写真・映像が含まれる場合は本人の掲載同意を必ず取得すること。
※尚、同意の取得およびその証拠の保管は、投稿者（提出元）の責任において行うものとし、教区は同意取得に関する個別の確認・仲裁・責任は負いません。
- ・未成年が写っている場合は保護者の同意が得られていること。
- ・写真・文章・イラスト等は投稿者が著作権を有しているものに限り、掲載拒否の意思を示した人物が写っている場合はモザイク・トリミング等の処理は投稿者側で行ってください。※こちらでは加工対応を行いません。

④ 掲載までの時間・締切

- ・掲載までに一定期間を要する場合があります。
- ・締切後に届いたものは次回更新または掲載見送りとなる場合があります。
- ・急ぎの掲載希望があっても必ず対応できるとは限りません。予めご了承ください。

⑤ 投稿ルート・責任の所在

- ・原稿には行事名、日時、場所、連絡先（教会名・担当者）などを必ず明記してください。
 - ・原則として主任司祭（または責任者）を通して提出してください。
※個人による直接投稿は、原則として受け付けておりません（特別な事情がある場合はご相談ください）。
 - ・提出があった時点で本基本方針に同意したとみなします。
 - ・投稿内容についての責任は、提出元の主任司祭が負うものとします。
- 本方針は必要に応じて改定する場合があります。予めご了承ください。

カリタス沖縄の活動報告



カリタス沖縄炊き出しボランティアの皆さん

カリタス沖縄「炊き出し」に参加させていただいて…

初めて炊き出しボランティアに参加してみて、私が思っていたよりも多くの方に食事をお渡しすることができたので良かったです。1人ひとりにお渡ししたとき、たくさんの方からありがとうと声をかけていただいたので嬉しい気持ちでいっぱいになりました。何より、困っている方々のために自分にもできることがあるということを知る良い機会となりました。少しでもお役に立てていたなら嬉しいです。ぜひまた次回も参加させていただきたいです。

安里カトリック教会 呉屋 まなみ (高校3年生)

炊き出しは、食事を提供するだけでなく、支援してくれる人がいるという思いも一緒に届けるものだと感じました。これからも続けていきたい活動ですが、同時に、炊き出しを必要としない日が来ることを目指したいです。

与那原カトリック教会 馬屋原 颯介 (高校1年生)

公園には若い人たちも集まっていて、助けを必要としている様子でした。みんなが安心して暮らせる沖縄にしたいと感じました。

与那原カトリック教会 馬屋原 由唯 (中学3年生)

初めて、炊き出しに参加したのですが、意外とたくさんの方がもらっていたのがわかったし、こまっているひとのために役立つことは難しいことだと思いました。来年も参加したいです。

安里カトリック教会 呉屋 あいみ (中学1年生)



カリタス沖縄のメンバーおよびボランティアを代表して、昨年度を通して私たちの活動に継続して祈りとご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

30分間傾聴スペース、ビーチクリーン、ゆいまーる移動カーによる小教区訪問、炊き出し、クリスマス子ども支援、食料支援、チャリティーコンサートなどの活動は、皆様の温かいご支援と励ましがあってこそ実現することができます。

2025年度 寄付金総額：首里;泡瀬;開南教会 ¥28,088; 個人寄付金 ¥85,000
チャリティーコンサート ¥209,392 今年度の活動に使った費用：¥173,854

新しい年度を迎えるにあたり、今後の活動においても引き続きお祈りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。地域社会への奉仕という私たちの使命に共に歩んでくださることに、改めて感謝いたします。

カリタス沖縄担当 クリストバル・マーシー



戦争がもたらす死と苦しみは 全人類を辱めるもの

教皇レオ14世は、中東情勢に憂慮を表し、戦争が人々にもたらす死と苦しみは全人類を辱めるものと強調された。

教皇レオ14世は、3月22日(日)のお告げの祈りで、中東情勢に憂慮を表明、敵対行為の終結と平和への歩みをアピールされた。

この中で教皇は、「中東はもとより、戦争と暴力に引き裂かれた世界の他の地域の状況を苦悩と共に見守り続けている」と述べられた。

教皇は「これらの紛争の犠牲者である、これほどにも多くの無辜の人々の苦しみを前に、沈黙していることはできない」と話し、「これらの人々を傷つけるものは、全人類を傷つけるもの」と強調。「これらの戦争が人々にもたらす死と苦しみは、全人類を辱めるものであり、神への叫びである」と述べられた。教皇は、敵対行為を止め、誠実な対話とすべての人間の尊厳への尊重に基づいた平和への道が開かれるまで、祈り続けるよう呼びかけられた。

(2026年3月23日 バチカンニュース WEBより)

Book カトリック文化センターからお知らせ

セールとのおみの市のご案内

日頃より、カトリック文化センターをご利用頂きまして誠にありがとうございます。当センターでは、4月1日(水)~18日(土)まで(定休日を除く)の期間、書籍、CD、一部の商品を除いた聖具等の10%オフセールとのおみの市を開催いたします。おみの市では、古本、生活雑貨、衣類等を販売します。尚、おみの市の売上の一部はカリタス沖縄へ寄付を致しますので、皆様どうぞ足をお運び下さい。皆様のご来店をお待ちしております。

カトリック文化センター 電話098-868-4649(崎山・城間)

2026年度

那覇教区女性の会



4・25

「いのちの日」ミサ

日時：2026年4月25日(土)午後2時~

場所：カトリック安里教会

司式：ボスコ神父



30分間傾聴 スペース

(30min.of Listening space)
お待ちしております!



開催日：4月19日(日)

5月17日(日)

6月21日(日)

時間：14:00~16:00

カトリック文化センター ☎098-868-4649



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせて頂いております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

